

山城の魅力発信と保全・活用による地域振興事業

取組に至る背景・事業の目的

上田市街地と坂城町の北方を東西に連なる太郎山・虚空蔵山系には、砥石・米山城跡や葛尾城跡（ともに県史跡）をはじめ、村上氏等が残した山城が数多く確認されている。こうした山城の保全活動については、山麓の自治会あるいは保存団体が担ってきたが、近年は保存会の構成員が高齢化し、若年層の関心も低く、新たな担い手への継承も難しくなっている。

近年はいわゆる「天守」をもつ近世城郭のみならず、各地域に残る「山城」にも注目が集まり、山城は観光資源としても重要なものとなっている。

そうした中、山城保存団体が連携して、活動の様子や整備した山城の魅力を広く周知することで、保存団体の構成員の増加や若年化を図るとともに、多くの観光客を呼び込むことを目的として「第27回全国山城サミット上田・坂城大会」を誘致した。事業実施にあたっては、山城保存団体を核とした実行委員会を結成し、令和元年度には「プレ大会」、令和2年度には「本大会」を開催した。

令和3年度は各保存団体の運営手法や山城整備の手法等に関する情報交換や相互協力等を行うことを目的として広域的なネットワークを構築する。また、協議会が取り組んだ保存・整備活動、そして山城の魅力を発信することを目的としたイベントを開催する。

事業内容

全国山城サミット上田・坂城大会+東御アフター大会を開催した。新型コロナウイルスの影響で昨年同様県内居住者限定での山城ガイドツアーとなったが、有識者による山城講座及び現地ガイドを行い、参加者へ山城の魅力や特徴をより効果的に伝えることができた。

また、同行した保存団体も今後のガイド等に活かせる情報を得ることができた。



【山城ガイドツアーの様子】

事業効果

①連絡協議会の設立

- ・上田広域山城連絡協議会を設立。12団体が参加し、今後情報共有や相互協力を行う。

②山城の魅力・整備の周知

③保存会の意識向上

- ・有識者及び保存会による山城ガイドツアーを6コースで実施。参加者に山城の魅力や整備について周知。有識者が解説することにより、参加者のみならず保存会も山城の魅力について知ることができ、意識向上につながった。
- ・上田広域山城連絡協議会を設立し、上田市、坂城町、東御市の12団体が加盟した。今後は各団体間の情報共有や相互協力等が進展すると見込まれる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- ・上田広域山城連絡協議会に参加した団体の中には積極的な活動を行っている団体がある一方、少人数の団体や現状十分な活動ができていない団体もある。そういった団体の活動支援や未参加団体、立ち上げを検討している団体への加入や活動の呼びかけをどのように行うかが課題となる。
- ・上田広域山城連絡協議会の活動を継続的に行い、組織拡大や各保存会の活動充実を図る。山城ガイドツアーのノウハウを活かし、協議会や各保存会でも同様の企画を開催していく。

【選定のポイント】

本事業をきっかけとして協議会が発足し、自立した活動を進めている点が評価できる。今後、協議会の体制が盤石となり活動の幅が広がることで、山城の保全や活用等の取組が拡大・深化するとともに、「山城」が上田地域における観光誘客の大きなテーマとなることが期待される。

団体名	全国山城サミット上田・坂城大会実行委員会 (上田市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	上田市教育委員会生涯学習・文化財課 0268-23-6362	事業費	800,759円
		支援金額	624,000円